



園だより[9月]



(ふじみこども園 HP)

令和7年 9月1日
千代田区立ふじみこども園

「子ども一人一人と、関わりの中で共に育つ集団の成長の両面から教育を考える」

園長 小林 晶子

この夏、「日本社会に根差したウェルビーイング教育をデザインする」という講演会で学ぶ機会がありました。「ウェルビーイング」は、よりよく生きることであり、「幸福」という言葉で表されています。個人的な成功に幸福を感じる欧米的な「個人達成志向」に対して、日本では、対人関係の調和の中で幸福感を感じやすい傾向がある等、文化や地域によって幸福の価値観は違ってきます。ただ、ウェルビーイングの要因として共通なのは、「ポジティブ感情やなにかかなると思う楽観さ」「目的ややりがいを持ち、自己実現や自己決定、成長に向かえること」「ポジティブな人間関係を築き、つながりと感謝をもてること」なのだと講演を通して考えられました。一人一人の幸福の捉えや感じ方は異なり、人は必ず関わりの中で生きていることから、他者と共にウェルビーイングに生きる能力が求められ、その能力は、周囲の人と協同して問題を解決し、自分たちの未来のより良い状態をデザインする力であること、その力を育成するための教育が求められていることについて考える講演でした。

8月6日に行われた、東京大神宮の納涼盆踊り大会では、始まる前の30分間をこども園の子どもたちの時間としていただきました。園で親しんだ「オバQ音頭」「もったいないばあさん音頭」「東京音頭」の曲でやぐらのまわりを踊りました。園の特色ある教育活動で講師をしていただいた、千代田区民踊連盟富士見支部の方々と一緒に踊ってくださり、やぐら太鼓講師の秋山様の指導の下、太鼓の音も加わり、楽しいひと時でした。参加の仕方や楽しさを感じる場面は子どもによって異なりましたが、地域の方とのつながりの中だからこそ感じる楽しさでした。

また、今、4・5歳児が園のプールの中で、水に顔をつけたり、潜ったり泳いだりして挑戦する姿が増えてきています。それも、友達が挑戦する姿やできるようになって繰り返し楽しむ姿を間近で見ていることで、自分なりの目標をもったからにほかなりません。

2学期も、子どもたち一人一人の成長や自己実現を大切にするとともに、関わりの中で共に育つよう、集団としての子どもの成長の両面を考えていきます。

《9月のねらい》

0歳児 はいはい組	○一人一人の健康状態に合わせ、ゆったりと過ごす。	
	○保育者に見守られながら、歩行やはいはい等体を動かすことや戸外に出て保育者と一緒に草花や花に触れることを楽しむ。	
1歳児 とことこ組	○保育者と一緒に手洗いや、ズボンの着脱など、身の回りのことを自分でやってみようとする。	
	○戸外に出て保育者と一緒に草花に触れたり、体を動かしたりする。	
2歳児 すくすく組	○衣服の脱ぎ着など簡単な身の回りのことを自分からやってみようとする。	
	○保育者や友達と一緒に体を動かして遊んだり、草花や実などの自然物に触れたりして遊ぶ。	
3歳児 ぼうけん組	短時間 保育	○保育者や友達と一緒に走ったり、簡単なルールのある運動遊び（「だるまさんがころんだ」や「むっくりくまさん」など）をしたりする中で、伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○生活の流れを思い出しながら自分でできることをやってみようとし、安心して過ごす。
	長時間 保育	○自分の思いを言葉や身振りで表現しようとし、遊びの中で保育者や友達と言葉のやりとりを楽しんだりする。 ○生活の流れを保育者と確認しながら自分でできることを進んで行おうとする。
4歳児 わんぱく組	短時間 保育	○友達と一緒に走ったり、かけ声や動きを合わせたりする楽しさや、玉入れ等をチームで競い合う面白さを味わいながら、体を伸び伸びと動かす心地よさを感じる。 ○園庭の草花を遊びに取り入れたり、虫探しなどをしたりする中で、その特徴に気付き、保育者や友達に言葉で表現するなどして、身近な自然への興味や関心をもつ。
	長時間 保育	○保育者や友達と一緒に走る楽しさを繰り返し味わったり、固定遊具で体を動かしたりすることを楽しむ。 ○夏から秋への移り変わりを感じ、自然物や生き物の変化に気付いたこと、感じたことを友達や保育者に伝えようとする。
5歳児 ふあいと組	短時間 保育	○夏休みの経験を遊びに取り入れたり、友達と自分の考えや思いを伝え合ったりして、遊びを進めていこうとする。 ○運動会のリズム表現やリレー、応援など、いろいろな運動遊びに興味をもって取り組み、自分の力を出す喜びや体を動かす心地よさを味わう。 ○遊びや生活を通して、同じチームや役割の友達と力を合わせていく楽しさを味わう。
	長時間 保育	○友達と誘い合って、かけっこやリレーなどで全身を動かして遊ぶことを繰り返し楽しむ。 ○虫の音や草花、昆虫の様子等から季節の移り変わりを感じ、気付いたことを友達や保育者に伝える。
預かり保育りす組		○自分のしたい遊びの中で、友達や保育者に思いを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりする。 ○預かり保育の生活の流れや、玩具の片付け方等を思い出して、自分でできることをやってみようとする。

★CES 掲示板★
～7・8月の姿から～

重点目標1 「電気の無駄使いをなくそう」

○打ち水で涼を得ました

8月20日16時15分からみらい館前にて、4・5歳児が昔ながらの打ち水を実施しました。打ち水用の水はプールで使ったものをペットボトルにとっておいたものです。バケツに移してヒシャクで水を撒きました。打ち水後は涼しい風が吹き、心地よさを味わいました。

○電気使用量の削減に努めました

みらい館全体として7月までの電気使用量を前年比の81%に抑えることができました。園でも使用していない部屋の電気や空調を消したり、ドアや窓を閉めて冷気を逃がさないようにしたりすることをさらに意識して取り組んでいきます。



重点目標2 「身の回りを整理整頓しよう」

○学期末に園内の身の回りの掃除をしました

幼児部は7月18日に第1学期終業式を迎え、学期末の節目を感じながら自分のロッカーや保育室の掃除を行いました。床を水拭きする雑巾が真っ黒になるまで、保育室や廊下の隅々まで掃除することを楽しみ、身の回りがきれいになる充実感を味わいました。

職員も、7月中旬の3日間を「環境整備週間」として遊戯室や園庭、教材室などを協力して整頓しました。

○9月の重点目標

「栽培物を収穫する楽しさを味わう」

園では、子どもたちと一緒に夏野菜を育てました。今年も、キュウリ、トマト、ナス、ピーマン等様々な野菜が実っています。土作りから始めて野菜の苗が生長し花を咲かせ、実がなる過程を見てきた子どもたちと一緒に収穫することで、触れる・匂いを嗅ぐ・食べるなど諸感覚を使って楽しみました。また、食せない大きさや形の野菜はスタンプなど遊びに取り入れていきます。

「日常備蓄で災害に備えよう」

9月1日は「防災の日」です。また8月30日～9月5日は、災害に対する備えを充実強化することにより、災害の未然防止と被害の軽減に資するよう、防災週間として設定されています。園の備蓄品も確認して、新しく入れ替えています。子どもたちとも、避難訓練等を通して、災害の備えなどについて知らせていきます。